

# 実践に役立つ アンケートのとり方まとめ方

---

鎌倉女子大学家政学部  
管理栄養学科  
中谷 弥栄子



# 講演のねらい

☆アンケート調査を計画し、評価を念頭においたアンケート票が作成できる。



- ① 調査目的・作業仮説を明確に出来る
- ② アンケート票の作成手順を理解する
- ③ 評価を念頭においた的確な質問構成、回答形式が選択出来る

# 本日の流れ

アンケート調査の手順

・アンケート作成計画書の作成

アンケート票の構築  
(質問形式の設定)

・仮説の設定～質問内容の設定

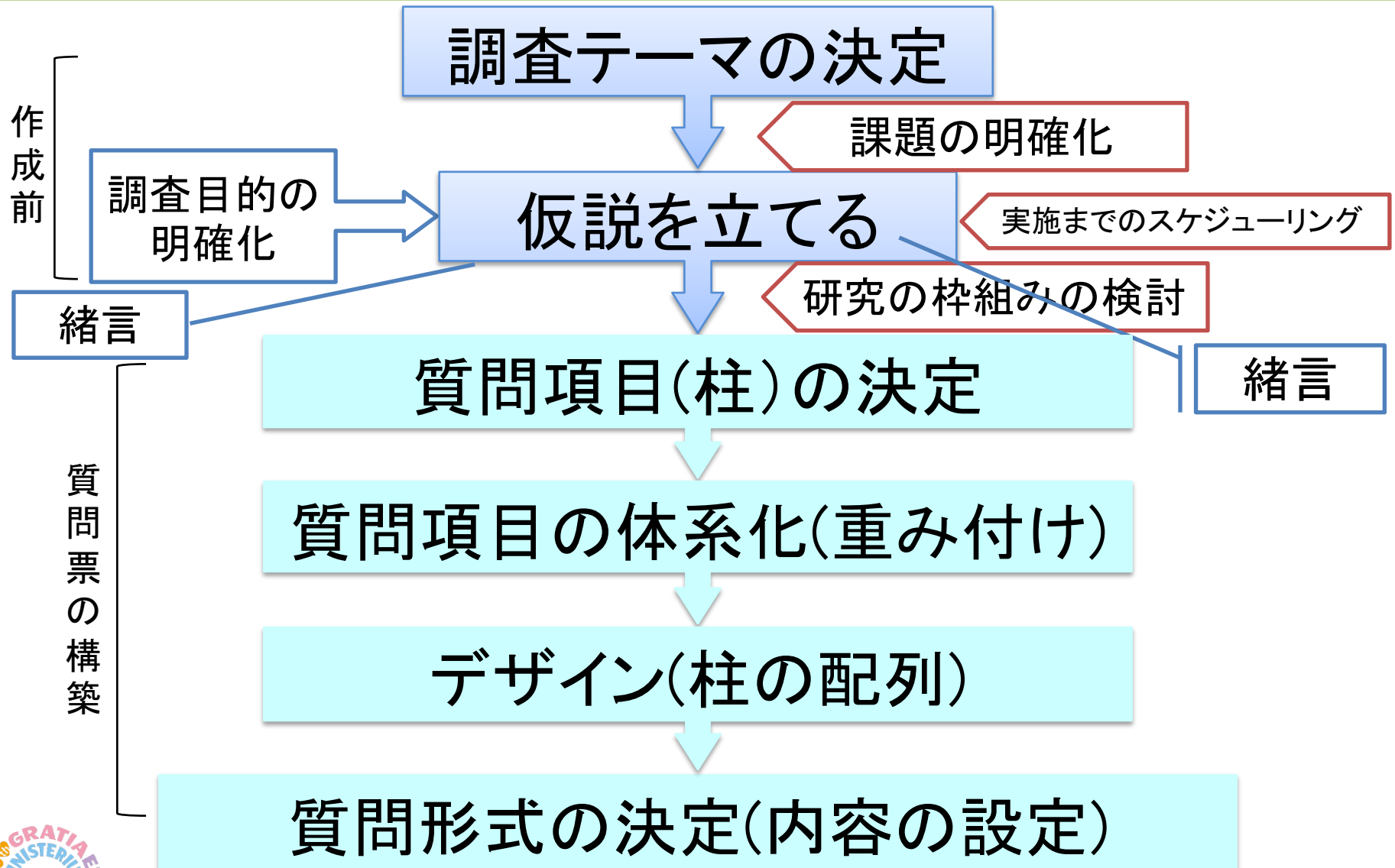
ワーディング  
回答形式・選択肢の設定

・質問文～選択肢の作成

演習:こんなアンケート票を作っていませんか?

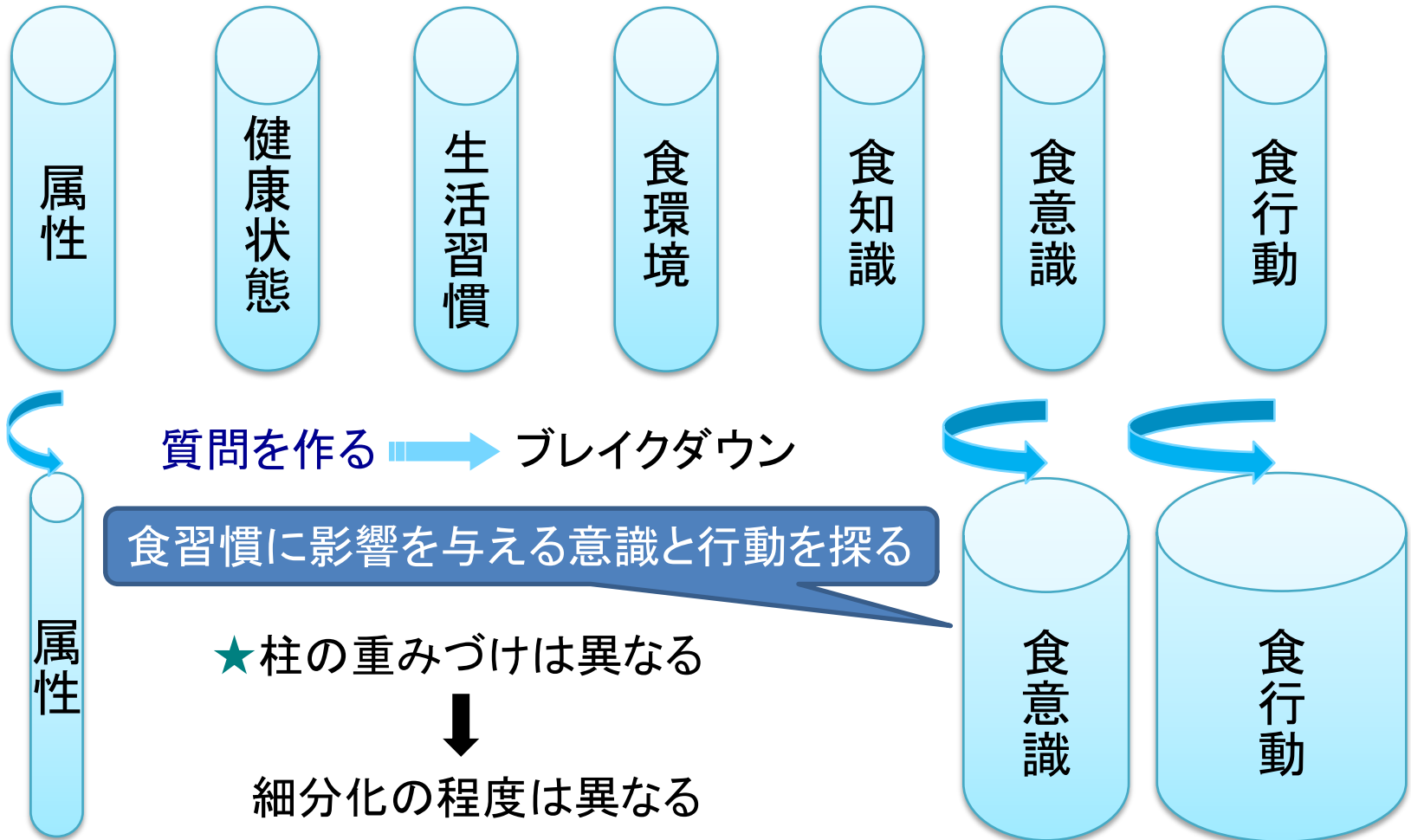


# アンケート票作成の手順



# 調査項目の柱を決定

☆ 検証する仮説により異なる



# 質問項目を選択する

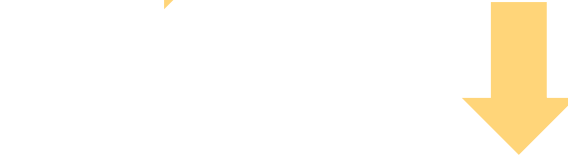
所要時間 30分程度

集計方法も  
合わせて検討

質問数

40問程度 → 目的に立ち返る

選択設問数が多い



必要性の高い質問を  
優先的に採用

# 配列は思考過程に合わせる

回答者が回答しやすいものから順に並べる

- ①一般的な質問→特殊な質問
- ②事実を聞く質問→意見を聞く質問
  - ★関連する質問は1カ所にまとめる
- ③属性：質問票の最後へ



# 体系的な構造にするためには

## スクリーニング質問 (Sub Question) の活用

1. 朝食を召し上がりますか。

基本的な質問は  
全対象者に

(1) はい → 2.へ (2) いいえ

1.1. 1で(2)と答えた方に伺います。

回答者が限られると  
分析は度数分布のみに

召し上がらない理由をお教えてください。

(1) 食欲がない → 2.へ (2) 食べる習慣がない

1.1.1. 1.1.で(2)と答えた方に伺います。

朝食の欠食習慣はいつ頃から始まりましたか。





# 全対象者が質問を同じ意味で受け取るために

## 基本的 事項

- 主語・目的語は省略しない
- 文体：肯定形
- 一読で理解できるわかりやすい表現

## 避ける表現

異なった解釈が可能な紛らわしい表現

「今の食生活は良いと思いますか」

→食生活は何をどの基準で良いのか

曖昧な表現：副詞

数字を使用し具体的に



# ワーディング(Wording)で気を配る点

- ① ダブルバーレル質問: 1つの質問に2つ以上の内容を入れる
- ② 威光暗示効果: 回答の誘導
- ③ 黙従傾向: 肯定的な回答をする, 建前で回答する傾向
- ④ キャリーオーバー効果: 質問の配列による歪み
- ⑤ インパーソナルとパーソナルの混同: 一般論で回答
- ⑥ ステレオタイプ化した言葉・表現



# 回答形式を考える – 単一回答

① 選択肢の数: 10前後, 5程度が適当  
→ 一読で内容が把握できる範囲

② 選択肢間の関係

→ 相互に排他的, 同次元にある

「どんな食べものが好きですか？」

a 肉 b 魚 c 卵 d 牛乳 e 鶏肉 f 卵焼き

③ 選択肢にすべての回答が網羅されていること  
→ 「その他」

# 回答形式を考える – 多肢選択

## 多肢選択

- ① 複数回答
- ② 限定回答：強い選択を知りたい場合に用いる
- ③ 順序づけ回答：選択の順序を回答  
※ 選択すべき選択肢がない場合と  
無回答の区別 → 「特になし」

評価尺度 好み・評価の程度を知りたい場合

- ① 5分尺度：回答が中央（ふつう）に集まりやすい
- ② 4分尺度：肯定的・否定的どちらかの回答になる

# 回答形式を考える – 自由回答

回答者の負担が大きいため→無回答になりやすい

①ありのままの回答を得る

②回数・人数を数字で回答

